

ともども加州東京銀行とかかわり合のを承りましたのは国村田故三郎氏との生念から
初まて居ります千九百五十年頃ラシーニ加州知事(後中央政討の大審院長)か
戦後の日本を訪問された時石黒由辰相と那須由辰字博士がラシーニ加州知事に日本の
各県から緊要なされた由辰村の青い年を加州に受け入れをわらい自習見学の機会を生ませ
ます。是非若手援助をといふ事を知事が快諾されたので那須先生が地がためのために
渡米とされ加州エクスチンシシ(バウ)といふ本部があり各郡に支部がある加州の富貴士人の
指導者(同胞)に知事からの指令により局のより多クワールのスス生エミ共に加州の目ぼしと思ふ
由辰(同胞)を訪問されて其の受け入れを進めてある。これに時私共の処を二三度程
所見訪り振込は本店にある時であらうと考へました。が父はこれには行まいと
いふ事をして受け入れのメシバにばかりました。それから翌年もと日本おりのを渡すにより
国村田氏と初め委員(同合意のもの)に運動を初め年々継続がを承ります。特にトミン
政討に請願をこまこまに知事から確な引受け団体を作つたなら許下するといふ事
が承りました。それで国村田氏が團長格で私も後援引受け団体の各口員の仲に入り生席と
致して居りました。関係上国村田氏が当りラスキングとしてラスパロスに廣り米田をたれ
自國からス架港の住宅に居られる通り道でもありましたのでよくおぼろしく
居りました。此の紐式がインターナショナルエイドアソシエーションと命名されました
蓋し其にたりる旨も深い由辰村青い年が渡米更習と続け居ります。

国村田故三郎氏は色々功績を見留められ日本より勳章を賜はれて居りました。
余津藩士とあられると千九百五十年頃であったと思ひます。が故郷より招待で
洋郷の遠東東京での歡迎会の時會合にりのために明日郷里訪り知事等の歡迎会と
ひかえて他界をされてしまつた。おしい事で。国村田氏は加州東京銀行の發起人
重役でもありました。国村田氏にかつた人が当地日系人中同行の大株主である
石松幸三氏であります。国村田氏が在せてあられたなほ此の度の私共の休む
もつとちがった首と歩けた事と信じて居ります。

下度由辰村青い年々の運動と前後して加州東京銀行の創立を見た頃と思ひます
えり同胞の爲の銀行であるから是非加へておいたりと心算起者の一人である。
国村田故三郎氏が柴田初代頭取と私に株主になる株にこ進めたこと承りました。が其の時
私は少く仕事と廣げた時であり餘裕がありません。ガタルラの南條の処においでなさいと
いふ事がありました。その後で国村田氏が南條に株主になつてもうた。向れと
いはれた事がありました。其の時な事から東京銀行の北加地方のアドヴァンサリーボード
の委員になつておいた。その事でしたが私はそんな者ではありません。ここはら續けて
居りました。がサンゼ市に第一番目の支店を生れる前に遂に名前を替へ
委員になり一年に一度迄のデニパーパーティに出席を致して居りました。

し

千九百廿三年にサンゼ市の自ぬきの場外に加州東京銀行の支店を建設せしめ、
初代支店長として赤沼(信州松本市出身)氏が赴任千九百廿四年赤沼氏が定年
引退され村上氏が第二代支店長としてかわられました。

赤沼氏は濃厚潔白の人であつたが、村上氏は地味な策略家の体には思はれました。
此の頃の赤沼氏もその原因が効まつたものであつた。

千九百廿四年のウヰンクアメリカに口座をもつては居りました。赤沼氏が足利氏との事業で東京
銀行の口座も口座を別々事になつた。

赤沼氏のウヰンク郡はキヤリウラニヤでの第二番目に工場地帯住地地帯として發展展
行より次第に曲成業地帯が侵蝕されて居りフリーザー(冷凍)キヤリウラニヤ社

シツパー(曲成産物)買買又は赤沼氏に買買引受け買買引受けより送つた(も他の地方に引
こまり曲成業用ウヰンク郡及機械類販賣会社又曲成業合社のスプーイ部員部員も

他の曲成業地帯へと引渡り行非常な不便な処と變りまして、かしたらされた代つて
ミルピタス方面も曲成業方面には益々將來性のある場所として地價もどんどん上つて

居り、それに比例して税金も上つて来た。其処も上つて来てミルピタスが千九百廿三年に
獨立市として設立、学校の費用が不足して居り市会が税金不足のためメキヤリウラニヤに

税金を引けて居り加州(當に税金の高い市)といはれるようになった。東道下水のパイプ道路
(町スロー)も上つて居り、曲成園も中々な所の税金を引ける所になつた。このため生

なり、早く畑を買つて他の方面へと運動を続け居りました。
其の間スプーイ(消毒)をする曲成業合社に南三むじり目にあわされて居ます。

千九百廿三年秋作セロリーのスプーイを飛行機でやった時濃度の高い曲成業と朝早く
涼しい内にやるべき物と見やり百一度近い日中にスプーイをしたためにセロリーの葉が皆黄色に

やけどした。買物になら、キヤリウラニヤのジウス(液)にし、買物事が生ずる大損になつた。
飛行士は軍隊から引退して来たばかりのスプーイに對して無知無識であつたため、たが二せり

フィルム(曲成場係り)の不注意でもありましたが、長い間の知りあひの人でもあり、新説と
起す元にも居らずに引きました。其のあげく長い年引きて居り、引きて居りました。シツパーも

サリナスに引いてしまつたので、明外のシツパーにたのんで見ました。が、赤沼氏も成績が上ら
ず、それでセロリ作りをやめてしまつた。

其の後でチエラントヤのセロリウエイと連絡がとれました。其の時の注文は三打りの
とスクリュー(五)に二打りの紙の力が(上のフタ)を浚わずに中に一人丈の紙をぶらりと

五の中に引いて上のようにあつた紙を折つた。たかばかりにするといふ、パイプも樂に手間も
かからず、引いた時もある。大きなシツパーも樂々とパイプの生来の利益率を引つた。注文で

ありました。高島の上各スプーイで、赤沼氏の注文と買買引つてから店引つて
似ませの注文も破りの注文したとの事を毎日二代買車分位の注文が来て

セロリ作りよりよい利益とセロリを引きました。

安永田氏が国会議員立候補の野心をもつて居りました。各地の有力者は
共知党のチヤーンレイグがサー氏を身長半自身らの地盤と見る聲のある人
とて安永田市長が大刀打が来る人ではなかつた。さうするが共知党の
ニラソニ大統領のワタゲート事務体がぼつぼつとまてアメリカ中の権威をまつた
格に騒然と居りました。

此の時ばかりと共知党は銭が意を得たりと益々てやまをあらせ居りました。この
共知党のグロブサー氏は老境はつても居る四面楚歌の狀態の伸居り引馬の思ひ
国会議員引退の聲明を發表致しやう。

此の好期を逃しこいと安永田氏が国会議員立候補の聲明を發表 新聞社
東銀村上氏を和氏其の外の日本を皆黨派を別として是非共同體中よりと
又自ら方面の民主黨の後援を得て大事も成遂せられた次第でした。

四、長谷川ローヤが此の国の法律として専ら家を助ける法律を制定し、これを知らず
此の目的は全然此の法律の運用と居りました。

五、銀行が烟を抵当として金を借入場合には当然の地價の五五%とある場合は
五五%と居りても銀行の監督法は合法になつて居る。

(註) 是れを一九百七十二年に議書の書き替の時銀行自らのたはは評價士の
此の烟の評價は百の千萬事と對し銀行は評價の三三%にも居らぬ金額の少
抵当としてさしおさるゝの処をさした事に對し事前にこうした對しなんの効力運動も
こゝからた事銀行は易から烟の賣れるは二待つとりの事を約束し居た事に對し又
法律として事前に男と相談とせればならぬ物を無談で知る手續を居つた事はた
此の爲に運動であつた。

六、此の烟は三つの区域に区分され税金を支拂つて居たので其の区分を又でもわけでの
競買にするといふ高所もてす(法律として区分して其の明の評價で買つて整理の
せまるもの全部を競買にして居りました事)

傳が一処に競買の席に立合つて競買の時延期の手續をさして居るやうに居た時
これと居つて居るまゝに居りました事

競買の席で東銀が半分間もかりに烟の抵当として借入金をとらめて四十萬事
と居ると銀行との解に居らぬと居るのタキス判子と居るめて十七萬事

計五十七萬事を居りました。

(註) タキス未拂は私を半間の判子も加算して五と半目に支拂の事合法になつて居る
と居る烟を賣つた總額中から未拂のタキスを差引く事にありキヤビタんが居るこの
税金を支拂を輕とするための法であつた。

タキス未拂の時主に烟を買取れる指しぬ時は銀行の手でタキスの支拂りを受け
やると村上氏が保證をして居る居りました。

東洋銀行は、甲種株のほかに、乙種株を發行した。自らのローヤル（特許金）を
こけし、そのほかに、ローヤル金

井田利吉の宣言の後、（シヤーン・ブー・ネ）十人のシヤーンから、双方のローヤルに對する
納付の行は、その購買問がある。また、ローヤルが銀行に、その買入事を説明致し
て、そのローヤル金

その後、シヤーンのシヤーン・ブー・ネが、武田フマー、トガ、正と、思ふに、シヤーン・ブー・ネは、
まいた、四十人のシヤーン・ブー・ネは、その買入、金、全部、其、場、一、部、で、その買入、
其の後、その買入のローヤルが、井田利吉の買入を得て、シヤーン・ブー・ネの、
法廷で、動いて、その買入シヤーン・ブー・ネの、その買入、その買入、その買入、
其の買入を、その買入

シヤーン・ブー・ネは、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、
それが、アメリカ國民の義務である。その買入、その買入、その買入、

東洋銀行のシヤーン・ブー・ネは、佐々木が、その買入の、その買入、その買入、
現金と受け、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、
その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、
その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、
その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

今、このローヤルの買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

東洋銀行は、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

たの買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

親買にかける、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

これを、法廷のシヤーン・ブー・ネの、その買入、その買入、その買入、

その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、その買入、

と出て相手をば何れと風が吹くか、この山はなほ早急なて居りますが
「多分この目にあつて居るの自白を、速にのみりきつたが、この一

勝訴になつて居る事は、法廷の記録に、虚偽と判つて居りますので、
各新聞は、あらも、このた、事にならますか。

由、銀が、私事の訴訟を起す所から、盛んに、悪口を、いふら、て居りますので、
自らの事を、知つて居るて、居る人、と、法廷に、本居、した、賭博、罪、員、大、は、信、い、て、居、り、
居りますか、其の他は、仲々、と、さ、り、。

この神だけは、ごせん、いで、あら、れます。

村上氏は、今、多、サ、ラ、セ、市、内、に、家、を、買、い、銀、行、の、表、例、か、ら、は、吉、り、日、本、か、ら、の、不、動、産、を、
買、取、り、の、申、込、申、に、對、し、この、世、話、を、東、館、の、た、め、に、い、つ、て、居、ら、れ、る、由、

長、女、は、當、中、の、火、倉、名、店、(日、本、物、を、取、ら、ず、か、つ、て、居、る)、(店、ま、の、義、弟、若、同、者、を、居、る、人、の、
長、男、(エ、ジ、ジ、ニ、ヤ、)と、結、婚、し、て、居、り、ま、す、(二、人、共、サ、ラ、セ、ス、ラ、カ、大、名、を、)

ま、言、は、れ、其、の、ま、ま、の、別、の、因、り、オ、フ、イ、ス、を、開、張、し、て、居、る、也、と、す、

今、日、に、こ、田、結、婚、此、の、度、は、四、田、自、白、と、い、つ、て、居、り、ま、す、。

市、長、及、國、會、議、員、は、い、や、と、は、が、ラ、マ、ス、ク、ル、時、代、か、ら、の、同、級、ま、で、あ、り、今、で、も、
毎、年、ウ、リ、ス、マ、ス、カ、ー、ド、を、送、つ、て、ま、さ、る、政、黨、は、め、に、は、る、に、は、並、通、の、人、は、と、こ、も、い、て、も、
若、早、達、か、の、間、に、百、萬、圓、上、の、儲、を、積、ま、て、居、る、とい、ふ、評、判、を、あ、り、ま、す、。

石、松、氏、は、益、々、社、會、の、上、位、に、の、こ、よ、う、あ、ら、ゆ、る、會、に、見、ら、れ、る、事、が、
生、ま、れ、ま、す、。

送、中、

和、序、似、依、に、あ、電、言、と、い、て、か、ら、は、算、に、と、思、つ、て、居、り、ま、し、た、が、色、々、せ、わ、い、と、
い、報、告、が、傳、れ、ま、し、た、が、今、日、や、つ、と、を、ま、上、り、ま、し、た、こ、と、ま、つ、の、物、は、あ、り、ま、す、の、
こ、こ、ま、か、く、申、さ、る、を、ま、す、と、い、つ、ら、が、あ、ら、ま、さ、い、て、い、つ、あ、ら、ま、す、の、事、は、い、つ、
多、う、と、い、つ、て、お、お、か、け、た、に、ま、す、と、申、さ、は、い、く、と、い、つ、て、居、ら、ま、す、。

二十二年、八月廿四日

同日

勸司兄上様

廿七